

明石昆虫探検隊の活動

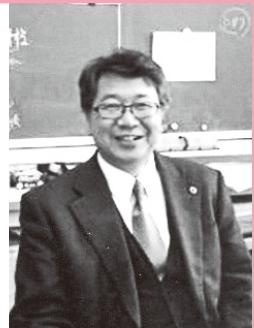
～足元の自然に積極的に関わろうとする子どもたちの育成をめざして～

PROFILE

寺岡 錠平 てらおか じょうへい (兵庫県明石市立高丘中学校校長)

昭和56年度より、理科教員として、兵庫県明石市公立中学校に奉職する。明石市立衣川中学校校長を経て、平成28年度より明石市立高丘中学校に勤務。

明石市教育研究所【理科教材開発研究グループ】立ち上げ時からのメンバー。現在は既に定年を迎えており、経験豊富なたくさんの先輩方から、活動を共にする中で、本来専門ではなかった【生物】分野のおもしろさを教えていただいた。しかし、ライフワークは高校時代から吹いている【尺八】の演奏・教授で、都山流尺八の竹号を【憧山】といい、定年後も引き続き、日本の伝統音楽の伝承・普及にたずさわっていきたいと考えている。



① 明石市の自然環境

本市は、南に明石海峡を臨む、東西15.6km、南北9.4kmの細長い都市で、市の東部には日本の時間を決める基準となる、東経135度日本標準時子午線が通っています。瀬戸内式気候のため、各地にため池が点在していましたが、都市化とともに、ため池の埋め立てや田畠の宅地化が進み、自然環境が大きく変化しているのが現状です。

その中にあって、市街地の中心にある明石公園は、都市公園でありながら、広い面積を有し、湿地や雑木林などの変化に富む自然環境に恵まれ、さまざまな昆虫たちの貴重な生息場所となっています。



保護者同伴で昆虫採集と標本作りの体験活動を実施することで、保護者の啓発も兼ねて、子どもたちの自然に対する興味・関心を高めることができます。そこで明石市教育研究所の『理科教材開発研究グループ』の仲間が休日を利用して、12年前にこの活動をスタートさせました。『明石昆虫探検隊』と称して、市内の28小学校の3年生を対象に案内を出し、毎年約20組の親子が参加しています。

② 昆虫探検隊の活動

私たちを取り巻く自然環境や生活環境が大きく変わり、それに伴って子どもたちが昆虫に関わる機会も年々少なくなっています。しかし、本来、子どもたちの昆虫に対する興味・関心は強いものがあり、適切な指導により昆虫を通して自然や環境に対する理解が深まります。



多くの昆虫の活動が活発になる6月からスタートし、7月8月と各月一回ずつ、明石公園をフィールドとして活動します。午前中に採集した昆虫を、午後から展翅や展脚をして標本にします。そしてグループで作製・発刊したフィールド図鑑『明石の昆虫』を使って、自分たちで名前を調べ、標本ラベルを作製します。

その後、標本は十分に乾燥させ、翌月の活動日にグループで考案したパック標本に仕上げます。これは台紙とカット綿を入れたチャック付ビニール袋の中に、標本とラベルを入れて封入するものです。チョウやトンボなどの大型の昆虫には適しませんが、大半の昆虫はきれいに収まります。最後に名刺入れに整理し、A4ケースにまとめて、コンパクトな標本箱が完成します。百円ショップでそろいうような安価で手頃な材料を使うことで、家庭でも親子で標本づくりに取り組むことができます。



と思います。

・子どもが楽しそうにしている様子、本などで捕まえた虫の名前を一生懸命に調べたり、標本作りに真剣に取り組んだりという、ふだんあまり見られない様子を見ることができて良かったです。また「先生方に質問する」力もつき、貴重な体験をさせることができました。

④ まとめ

SNSやゲームなどバーチャルな世界での活動は、ますます子どもたちを自然から遠ざけています。こんな時代だからこそ、自然との直接体験が必要です。若い保護者も自然体験が十分ではない今日、小学校1,2年生での生活科や3年生での環境体験学習が重要になります。そして指導する先生方の力量が問われます。多くの先生方も、バーチャルな世界の遊びの中で育った世代であり、自然体験が少なく、昆虫を素手で触ることすらできない人も少なくありません。低学年の児童にとって、担任の先生から受ける影響は大きなものがあります。先生が変われば子どもたちも変わります。「聞いたことは忘れて、見たことは覚えて、やったことは理解して、見つけたものが身につく」といいます。先生自らが直接フィールドに出て、地域の自然を肌で感じることが大変重要です。今後は、小学校の若い先生方にもこの活動に参加してもらい、昆虫のおもしろさや地域の自然の奥深さに気付いてもらえたとを考えています。フィールドでの子どもたちの素晴らしい目の輝きに、言葉では伝えられないものを感じ取ってもらえることと確信しています。

グループの半数が定年退職を迎えてしましたが、足元の自然に積極的に関わろうとする子どもたちの育成をめざして、活動を続けていきたいと思います。

引用・参考文献

- ・『明石の昆虫』理科教材開発グループ著
(2007年) (明石市立文化博物館発行)